

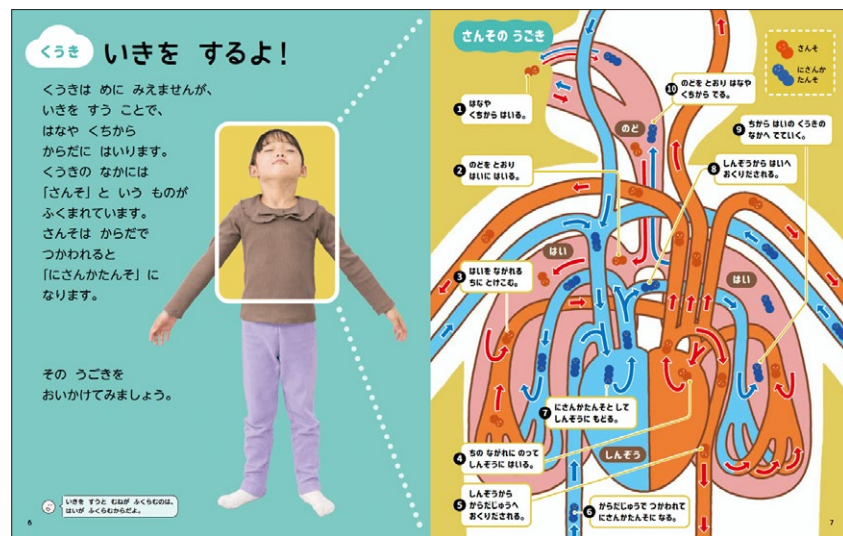
今月は「からだの ふしぎ」

人間のからだは常に、外から必要な物質を取り込み、体内で利用し、不要になった物質を外に排出することで、生命活動を維持しています。必要な物質は大きく分けて、空気・栄養・水の3種類です。それぞれがからだに入ってから出るまでを見てみましょう。



ページをめくると...

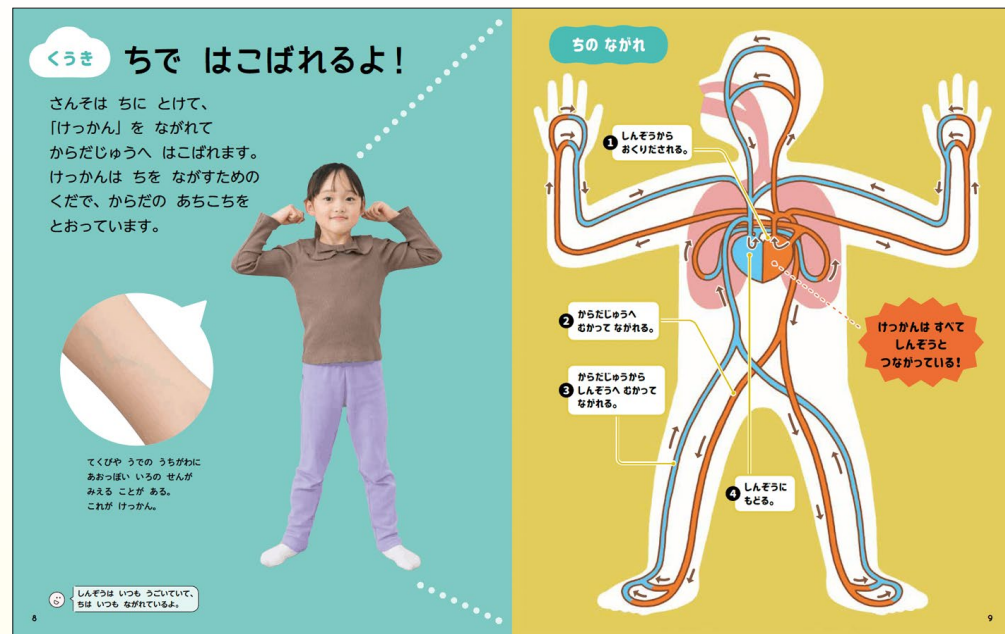
6・7 から 8・9 の展開例



くいきは
どうやって からだに
はいつていくの?

ねらい 息を吸うことから始まって、酸素がどのようにからだの中を動くのか、順番に見ていきましょう。

さんそは
ちで
はこばれる?



ねらい 血液が酸素を運ぶこと、血管が全身をめくっていることを理解できるようにしましょう。

つかい方のポイント 自分のからだを触って心臓の場所や血管の見える場所を探してみましょう。心臓と血管の存在を実感させ、それらがつながっていることを誌面の絵をつかって説明します。

たべたものは どうなるの?

14・15 ページ

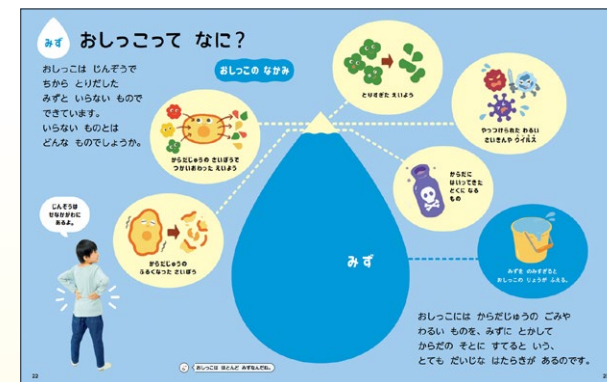


ねらい 食べ物に入っている栄養が、どのようにからだに取り込まれるのかを知りましょう。

つかい方のポイント 栄養が取り込まれる流れを、絵を見ながら追いかけてみましょう。自分のからだで胃や腸、心臓のだいたいの位置を触りながら読むと、流れが実感できます。栄養が腸から肝臓へ、そして心臓へ送られた後は、酸素と同じように血液によって全身へ運ばれることも伝えましょう。

おしっこって なに?

22・23 ページ



ねらい おしっこには、からだの中のいらない物を外に捨てるという、大切な役割があることを伝えましょう。

つかい方のポイント いらない物とはどんな物か、どのようなときにおしっこに行きたくなるかなど話しましょう。おしっこやうちの働きで、からだの健康が保たれていることを伝え、排せつのたいせつさを理解できるとよいですね。

あそびの展開例

自分のからだで不思議を探そう

- ねらい** ●心臓や呼吸の動きに気づき、自分のからだに関心をもつ。
- 遊び方** (子どもが経験すること) ●胸に手を当てたり、聴診器で保育者や友だちの心臓の音を聞いたりする。
●息でティッシュペーパーやシャボン玉を飛ばしてみる。
●おしっこ、うんちのほか、汗や涙などについても、どんなときに出るのか考えて意見を出し合う。
- 保育者の配慮** ●子どもたちといっしょに体験しながら、子どもの気づきやつぶやきに共感し、不思議に感じたことなどを調べられるよう、絵本や図鑑などを用意しておく。

「しぜん」を読めば答えがわかる!
今月の
扉ページのクイズ

- くいきの なかに あって、からだじゅうで つかわれる ものは なに?
- うんちが つくられるのは どこ?
- からだの なかみで いちばん おおい ものは なに?